

CEOメッセージ

次世代産業を具現化する素材で、持続的成長と株主還元を実現

社会の不可欠な「マザー・インフラ」として

物質の可能性を解き放つ「化学」こそが、文明の進化を物理面から支えるマザー・インフラです。フィジカルAIや自動運転といった次世代の産業変革も、それを具現化する革新素材がなければ、社会実装には至りません。当社グループは、あらゆるイノベーションの起点となる「万物の始点」を担う誇りを持って、未来社会を支える中核となる価値を創出し続けています。長年培った基幹化学品の安定供給によって社会経済の骨格を支えつつ、半導体・電子材料やモビリティ分野などの最先端領域において、代替不能な高機能ソリューションを実装しています。今後、私たちは素材の提供者という枠を超え、地球環境と高度文明を両立させる「持続可能な社会の基盤（社会・産業を下支えする“OS”）」としての役割をさらに強固なものにしていきます。

持続的な成長を目指して

前中期経営計画期間において、当社グループは持続的な成長を目指し、研究開発力の強化、汎用樹脂生産の停止、次世代に向けた工場整備の実施、グローバル展開を積極的に推進してまいりました。研究開発においては、研究拠点の増設と人員増強を進め、成長分野の開発を加速させるとともに、大型設備投資により高付加価値製品の製造設備を増強しました。また、グローバル展開においては、米国における瞬間接着剤事業の単独運営への移行や、中国華南地区での子会社再編など、約30年ぶりとなる事業スキームの刷新を断行しました。さらに、事業における第4の柱の構築に向けた動きとして、メディカル分野への取組みを本格化させました。これらの経験を糧に、現場力の強化と迅速な意思決定を重視し、グループ全体の成長基盤をさらに強固なものとしていきます。

株主目線を加速し、資本効率を早期に改善

2028年中期経営計画では、前中計から掲げる「株主目線」の経営を一段と加速させます。最大の使命は資本効率の早期改善であり、2028年にPBR1倍以上、2030年にROE8%程度の達成を重要目標に掲げました。財務面では、自己資本比率70%程度とA格以上の格付けを維持し、健全性と最適な資本構成の両立を図ります。株主還元は現預金の圧縮が進んだことを踏まえて、総還元性向90%程度とし、配当の比率を高めることで配当性向を期間平均70%程度へ引き上げます。併せて、2025年12月に開始した株主優待制度を継続し、中長期の「ファン」拡大と安定的な株主の構築を図ります。投資家の皆様の期待に応えるべく、市場評価の最大化に向け企業価値向上に邁進してまいります。

代表取締役会長 CEO

高村美己志